

マネージメント情報

※カナダ・アメリカ研修報告【アメリカ大農場編…Vol.2】

「今アメリカの大規模酪農場はどうなっているのか？」

大規模農場紹介の第二弾です。

その前に前回 Milk Source Rosendale Dairy の雇用に関して書き忘れたことを紹介します。昨年5月にウイスコンシン州の南のアイオワ州のもう一つ南隣りのミズーリ州に同規模の農場の建設が決まりました。その理由のひとつが従業員のモチベーションの為だということです。

ひとつの農場の中ではポジションは限定されてしまいます。特に農場長などの主要ポストに就ける従業員などはそうなります。Milk Source は若い優秀な従業員のポストをつくることも新しい農場展開の理由だということです。今回のミズーリ州の農場の農場長はウイスコンシン州の農場生え抜きの20才台の青年とのことでした。前回紹介しました賃金同様われわれが考えている以上に酪農場で働く人は厚遇されていました。

Milk Source の HP にこのミズーリ州の農場のことが書かれていますが、その中でウイスコンシン大学の最近の報告として“近代的な酪農場が地域社会に与える乳牛一頭の経済的影響”が\$34,000以上だということです。日本円で3,470,000円(110円/\$)、乳価換算をすると700万円を超えることとなります。どういう計算なのかはわかりませんが、健康な乳牛1頭の経済効果ということで考えると理解できると思います。いかに乳牛を健康に維持・管理することで莫大な経済効果が生まれるかということです。ですから、彼らは従業員をととても大事にするのだと思います。

【Fair Oaks Farms】

Fair Oaks Farms は初めて訪問したのが H13 年の秋で、途中何度か再訪しましたが現在はここもさらに大きくなっていました。

H13 年には搾乳牛 3,000 頭、乾乳牛 300 頭規模ワンユニットの農場が 4 カ所あり 13,000 頭という規模でしたが、現在はこのユニットが 11 カ所+竣工したばかりの Delaval の搾乳ロボットが 8 台の牛舎が 1 棟という構成でした。

出荷乳量はロボット牛舎を除いて、1 頭当たり乳量は 30kg 程度ですが農場全体で日量 1,000t を越えます。

【16 年前に M 情報で紹介した Fair Oaks Farms の写真ですが、今も変わりませんでした】



牛舎が大きすぎてカメラには入りきれないので、こんな写真になってしまいました。

正面から見たところで、この奥に同じ 420m の搾乳牛舎と 210m の乾乳牛舎が並んでいます。

その大きさを想像してみてください。

左下の写真にローリーが写っていますが、1日に4回集荷に来るそうです。

右下の写真は 420m 牛舎の端から奥を見たところです。

直接農場の方に説明を受けることはできませんでしたが、Fair Oaks Farms が行っている Fair Oaks Farms には Adventures と呼ばれる農場の見学ツアー(乳牛・豚・飼料の三種類あり、それらの見学と教育プログラム)があり今回は時間が無く乳牛の方だけに参加してきました。ここでは教育施設の他に牛乳・バター・チーズ・ヨーグルト・アイスクリーム等の乳製品その他ソーセージ・ベーコン等の肉製品、チョコレートの製造販売・ネット販売、Cafe、レストラン、ホテル、結婚式場、子供向けのアトラクションなど様々な事業展開を行っています。

【ビジターセンター外観】



【内部の様子】



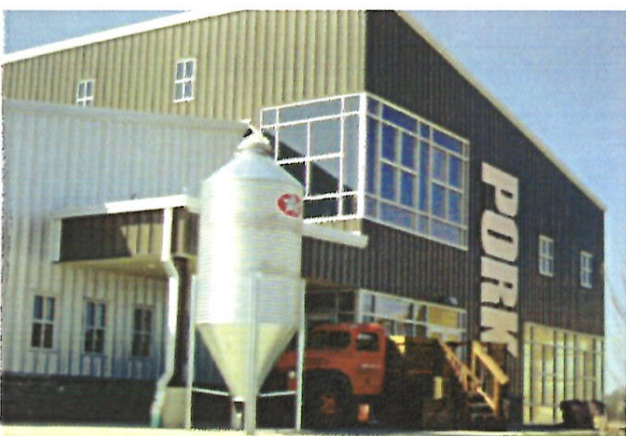
【見学バス①】



【見学バス②】



【養豚施設】



【牛乳パックのボルダリング施設】



写真のような施設をとおして酪農に対する理解を促しています。また、コンセプトとして実際の農場を見てもらうことにより自然と食料と動物と地球が再びつながることを学んでもらおうとしています。アメリカでは Milk Source もそうでしたが、酪農は環境を守り自然と共存していく考えを持ち実践していかなければ地域社会に認めてもらえず、経営を維持していくことはできません。そのために営

農のコストの他に環境保全や地域社会の理解を得るためのコストが莫大に必要になりますし、この問題をクリアできる酪農家だけが営農を続けていくことができるように思えました。

【見学ツアーの他に分娩を直に見せる施設…Birthing Barn】

ステージに 2 つの分娩房があり、階段型の観覧席から分娩前後の様子を直に見ることができます。時には難産の場合もあるようで、実際の姿を消費者に見てもらおうとしています。

【外観】



【ステージ】



【難産介助の様子(牛)…YouTube より】



【難産介助の様子(豚)…YouTube より】



.....
・優秀な従業員のポストを作るために新しい農場を展開するという発想は初めて聞きました。従業員のモチベーションを維持し長く働いてもらうという意味では一般企業では当たり前に行われていることですが酪農場でも同じ様に行わる時代になっているということです。日本にも同様な形で全国展開している酪農場がありますね。

・2 回に渡ってアメリカの大規模酪農場の紹介をしました。日本の酪農家の規模を比較するとかけ離れ過ぎていて、ピンとこないかもしれませんが、敢えて紹介したのは①この様な規模の酪農場が各州に普通にあるということ②アメリカの酪農場で働く人の労働条件を知って欲しかったということ③乳牛の健康は管理する人で決まるということ④乳牛がもたらす経済効果の大きさを再確認して欲しかったことです。酪農の基本は規模の大小、国を問わずいつの時代も不変です。